

会議結果報告書

1	会議名	平成 30 年度第 1 回環境指導員地区会議（茅ヶ崎地区）
2	日時	平成 30 年 5 月 29 日（火）14：00～15：30
3	場所	本庁舎 4 階 第 5 会議室
4	出席者	（資源循環課）森岡副主査、永井主任 （環境事業センター）篠田主幹、安齋担当主査、井上技能労務統括主査、田中技能労務統括主査 （茅ヶ崎地区）参加人数：23 人
5	内容	<p>本市のごみ処理に関する課題について意見交換会を実施した。会議の主な質問と意見は次のとおりであった。</p> <p>●有料化ありきの説明に思えるが、税金を上げる等その他の方法はないのか。ごみ問題は地方税で対応すべき。また、指定の袋を買いにくい煩わしさがあるので、不法投棄が懸念されるのではないかと。現場が混乱するようなことでは困ってしまう。また、コンポストなどの施策を最近聞かなくなったが、有料化ありきになっていないか。また、生活困窮者に対しても料金を徴収するか。</p> <p>→有料化ありきではない。市としてはごみの減量化の中のメニューのひとつとして有料化を考えている。ごみ減量の最大の処方箋が、有料化と言われているが、あくまでも、メニューのひとつと考えている。また、税金で一律に徴収する方法ではなく、ごみの排出量に応じた手数料をいただくことを考えている。不法投棄については、今後対策を検討していきたい。また、困窮者については、減免対応等を検討していきたい。</p> <p>●湘南ライフタウンの堤地区に住んでいるが、住民は戸別収集を待ち望んでいる。ごみの減量にも確実に繋がる。集積場の問題も解消する。環境指導員に使う経費も浮くと思う。環境指導員の報酬に当てられる税金は無駄に思う。また、デメリットとして説明があった「コミュニティの希薄化」については、市側の思い込みだと思う。むしろストレスがたまる。</p> <p>→1 年間で約 900 万が環境指導員に要する費用となっている。先進市の状況を踏まえると、いきなりすべてのごみを戸別収集することは難しい。対象とならないものについては、今まで通り集積場所から収集することが想定される。鎌倉はごみ処理施設の問題があり、有料化とともに戸別収集を実施すると、費用の面から赤字となってしまうことなどの意見があり、戸別収集は実施していない。また、コミュニティの希薄化を懸念する声もあった。茅ヶ崎市は皆さんからのご意見と先進自治体の例をふまえ検討を重ねていきたい。</p> <p>●バーベキューで出たごみを有料化にすることはできないか。</p> <p>→手法としては可能かと考えている。有料のごみ袋を使うことなど、所管課と検討した経緯もある。</p>

	以上
--	----